

科目名	翻訳論特殊研究	担当者	アキクサ 秋草 シュンイチロウ 俊 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>文芸思想のひとつである翻訳研究を行う上で必要な知識をえるための文献を読む授業。前期はオックスフォード大学出版会の Translation: A Very Short Introduction を、後期は、「新しい比較文学」を標榜する学術書を精読していく。Translation は翻訳について考える上で必要なトピックが一通り触れられており、参考になる。また、アプターの著作は概念モデルとしての「翻訳」が、さまざまな事象を考えるうえでどこまで有効なのか、手がかりになる。後期にかんしては受講者の関心、進捗状況に応じて柔軟に教材を選定することも考えたい。</p> <p>以上の書籍の通読、レポートの作成を通じて、専門的な英文読解能力、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 本格的な専門書、英語の学術書を精読し、内容について批判的に議論できるようになること。英語を含む参考文献・引用・注の体裁をととのえた学術論文の執筆形式に習熟すること。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 英語の学術書、専門書を数か月で通読できる語学力の獲得。内容を適切に要約・説明しうる翻訳力の獲得。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。そのうえで面接ゼミ・サイバー・ゼミのいずれかに参加し、課題レポートについての報告をおこなうことが推奨される。</p> <p>【学修方略 (LS)】 教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。</p>		
スケジュール	<p>前期： 7 月中旬までに教材 1 のレポート課題(1)最終稿を提出。 レポート課題(2)については 9 月中旬までに最終稿を提出。</p> <p>後期： 11 月中旬までに教材 2 のレポート課題(1)最終稿を提出。 レポート課題(2)については 2019 年 1 月中旬までに最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。
	平常評価	20 %	メール、manaba、ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>前期はやや大変と思われるかもしれないが、英語で学術文献を精読できることは博士論文執筆の最低条件であるので、一年をかけて一冊の学術書を読むことで英語読解力を養成してほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Matthew Reynolds 教材名： Translation: A Very Short Introduction, Oxford University Press. 2016. \$11.95.
	総ページ数は 100 頁ほどの、通読可能な翻訳研究入門書。漫画や文芸作品の翻訳など、実例も豊富で、日本の作品についてもとりあげられており、推奨できる内容である。
参考図書	パスカル・カザノヴァ 『世界文学空間』 藤原書店
履修上のポイント	当然ながら、引用されている文献にできるだけ目を通してから課題に挑戦すること。
レポート課題 1	課題図書の内容を要約し、批判的に自分の意見を述べなさい (3000 字以上)。 留意点： つまりアカデミックな書評を書くというもので、当然ながら先行の書評が参考になるはずである。
レポート課題 2	課題図書での議論を参考にして、自分で文学作品・芸術作品 (映像作品などふくむ) を一つ以上とりあげて翻訳という観点から論じなさい (3000 字以上)。 留意点： 扱う作品は日本語含め、どんな作品でもかまわない。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： エミリー・アプター 教材名： 『翻訳地帯 (仮)』 慶応義塾大学出版会, 2018 年春刊行予定
	各章が独立しているが、「翻訳」をキーワードに戦争や芸術、遺伝子などさまざまな事象にアプローチしていく。翻訳研究のモノグラフだが、ジェレミー・マンディ『翻訳学入門』のようなスタンダードな入門書とはかなり異なる。
参考図書	Emily Apter, <i>Against World Literature</i> , 2013.
履修上のポイント	当然ながら、引用されている文献にできるだけ目を通してから課題に挑戦すること。
レポート課題 1	課題図書の全 16 章+イントロダクションのうち、最低 3 章を選んで内容を要約し、批判的に自分の意見を述べなさい (3000 字以上)。 留意点： つまりアカデミックな書評を書くというもので、当然ながら先行の書評が参考になるはずである。
レポート課題 2	課題図書の議論を参考にして、自分で文学作品・芸術作品 (映像作品などふくむ) を一つ以上とりあげて翻訳という観点から論じなさい (3000 字以上)。 留意点： 扱う作品は日本語含め、どんな作品でもかまわないが、前期とは異なるものを選ぶこと。